

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
効	コウ きく いたす ならう								画因説文
效									王勃詩序
勅	チョク いましめる みことのり								瑞玉集
敕									
勅									
勅	ボツ にわか におこ るにわ かに								王勃詩序
勅									
勇	ユウ いさむ いさまし								瑞玉集
勇									
勅									
勉	ベン つとめる								鄭書指歸
勉									
勘	カン かんが える								最澄 越州録

【効】本来は「力」ではなく、「攴」に従う字だったようだ。「攴」は「攴」に変化する。南北朝期には「効」が現れる。干祿字書では「効」と「效」は別字扱い。九經字様では「效」が親字で「効」は訛、つまり異体字。九經字様の傍は「攴」ではなく「攴」。欧陽詢は皇甫誕碑で「効」を九成宮醜泉銘

で「效」を書いている。康熙字典には「効」と「效」の両方があるが、「效」の傍は「攴」ではなく「攴」。現代中国では「效」。

【勅】説文には「敕」と「勅」があるが、「敕」は「誡也」、勅は「勇也」と別字として掲載されている。五經文字は親

平安中期 から 室町	江戸版 本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
効	効	効	効		効		効	効	効	効	効	効
效		效	效		效		效					效
勅	勅	勅	勅		勅		勅	勅	勅	勅		勅
敕		敕	敕		敕		敕					敕
勅		勅	勅		勅		勅					勅
勅		勅	勅		勅		勅					勅
勅		勅	勅		勅		勅					勅
勇	勇	勇	勇	勇	勇		勇	勇	勇	勇	勇	勇
勇		勇	勇		勇		勇					勇
勅		勅	勅		勅		勅					勅
勉	勉	勉	勉	勉	勉		勉	勉	勉	勉	勉	勉
勉		勉	勉		勉		勉					勉
勘	勘	勘	勘	勘	勘		勘	勘	勘	勘	勘	勘

字に「敕」を掲載し、「勅字今相承皆作勅唯整字從此敕」とする。現代中国では「敕」を用いる。

【勉／勉】中国では昔も今も正字も慣用字体もすべて「勉」。康熙字典にも「勉」はあるが「勉」はない。「勉」が現れるのは日本の江戸期。漱石も江戸期と同じ「勉」を書く。当用漢

字表は「勉」で、当用漢字字体表で「勉」に変更。当用漢字字体表の発表時、岩田母型製造所には「勉」の字体の母型はなかった。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆書	隷書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
動	ドウ うごかう つとめる つとめる つとめる								動 王勃詩序
務	ム つとめる つとめる								務 聖武天皇雜集
勤	キン ゴン つとめる つとめる								勤 聖武天皇雜集
勝	ショウ かつ まさる たえる								勝 王勃詩序
募	ボ つもの								募 光明皇后社 家立成
勸	カン すすめる								勸 聖武天皇雜集
勸									勸 性靈集

平安中期 から 室町	江戸版本 1716年 部首・画数	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
動												動 現代中国
務												務 現代中国
勤												勤 現代中国
勝												勝 現代中国
募												募 現代中国
勸												勸 現代中国

【務】「力」を下部中央に書く移構の文字が日本にはある。「支」は「攴」に変化するが「攴」に誤ることがある。弘道軒が「攴」に誤った字体。現代中国も「攴」の字体。

【勝】大徐では「力部」、五経文字では「舟部」に収録。干禄字書で偏の「月」の中が横線のものを五経文字で点に訂正し、

「ふなづき」として「舟」部に載せている。康熙字典も文部省活字も同様に点。当用漢字表も点であった。

【募】康熙字典ではこの字のくさかんむりを4画に数える。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆書	隷書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
勢	セイ いきおい		勢		勢		勢勢勢	勢	日本上代から平安初期
勳	クン いさお		勳	勳	勳		勳勳勳	勳	日本上代から平安初期
勳	人②		勳	勳	勳		勳勳	勳	日本上代から平安初期
勺	シャク	勺	勺	勺	勺		勺勺	勺	日本上代から平安初期
勺	人→新①	勺	勺	勺	勺		勺勺勺	勺	日本上代から平安初期
勺	教5 常①	勺	勺	勺	勺		勺	勺	日本上代から平安初期
勺	人→新①	勺	勺	勺	勺		勺	勺	日本上代から平安初期

【勳】「勳」に従う字体があり、後にもまれに書かれることがある。

【勺】もとは「勺」の異体字だったようである。干祿字書は「勺」を〈俗〉、「勺」を〈正〉としている。「勺配」の「勺」という用法は江戸期になって見られる。江戸期には「勺」の

「口」を点とする字体の使い分けも現れる。江戸期は「勺」と「勺」の字体が衝突する。北魏では「勺」の字種として「勺」の字体を使うことが圧倒的多数派だが唐代になると「勺」の字体は見えず、「勺」に統一されている。法華義疏は「勺」の字体を書いているので唐代よりも古い時代の字体の影響を

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41～ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
勢	勢	勢	勢	勢	勢	勢	勢	勢	勢		勢	勢
勳	勳	勳	勳	勳	勳	勳	勳	勳	勳		勳	勳
勺	勺	勺	勺	勺	勺	勺	勺	勺	勺		勺	勺
勺	勺	勺	勺	勺	勺	勺	勺	勺	勺		勺	勺
勺	勺	勺	勺	勺	勺	勺	勺	勺	勺		勺	勺
勺	勺	勺	勺	勺	勺	勺	勺	勺	勺		勺	勺

けていると思われる。
【勺】国字。平安時代以降に使用例が確認できる。小野道風「屏風土台」では「勺」の字体を書いている。